

2025年度(令和7年度)

消防吏員上下型防火衣仕様書

福山地区消防組合消防局

消防吏員上下型防火衣仕様書

この仕様書は、福山地区消防組合消防局(以下「消防局」という。)が発注する消防吏員上下型防火衣について定める。

この防火服は、消火活動・救助活動等における現場活動において、安全性・運動機能性の向上、またヒートストレス軽減を考慮し、上衣丈はショートタイプとし、ズボンについてはハイウエストタイプとする。

外衣と中衣からなる多層構造とし、『ホディ・ナビデザイン』による特殊立体デザインの上衣とズボンとし、外衣と中衣は着脱可能なものとする。

1 総 則

- (1) 本仕様書の解釈は消防局によるものとし、応札者は、応札前に本仕様書を熟知し応札すること。
- (2) 本仕様書の疑義については消防局課員に質問し、協議のうえ施行完成すること。細部については、消防局課員が別に指示することがあるが、本仕様書に記載されていない部分についても当然必要と認められる部分については良心的に施行すること。
- (3) 防火衣上衣・ズボンで1式とすること。
- (4) 防火服は、一般社団法人 日本消防服装・装備協会(JFCE)の認定(A種)を受けていることを証明する書類(写し可)、使用する外衣生地は、原反メーカーの品質証明書並びに出荷引き受け証明書を2025年(令和7年)6月18日(水)までに消防局総務課に提出し承認を受けること。
- (5) 製品完成の際は、消防局の指示によって検査を受け、手直しの必要がある場合は指定の日時までこれを完了すること。なお、消防局課員が製作中に検査を行う場合がある。
- (6) 製品は、1着ごとに良質な袋に入れ、サイズ等が容易に確認できるようにすること。
- (7) 採寸は、着せ付け採寸とすること。
- (8) 納入場所 消防局 総務課
- (9) 納入方法 搬入
- (10) 納入期限 2026年(令和8年)3月30日(月)
- (11) 数 量 41式
- (12) 採寸については、消防局課員と協議のうえ日程調整を行い実施すること。
- (13) 納入後、サイズ等の修正が発生した場合は、速やかに対応すること。

2 使用材料

(1) 主材料

事項		要求性能等
(防火服 表地)	品番	X27A20(ネビール)
	品名	エクスファイア®ダイヤリップ
	組織	特殊織(ダイヤモンドリップストップ)
	密度	タテ 47 本以上(2.54cm 間) ヨコ 42 本以上(2.54cm 間)
	混率	メタ型アラミド 82±5% パラ型アラミド 18±5%
	質量	235±15g/m ²
	燃焼性	残炎時間 1 秒以下(測定方法:JIS L 1091 A1 法) 余じん時間 1 秒以下(測定方法:JIS L 1091 A1 法) 炭化面積 10c m ² 以下 (測定方法:JIS L 1091 A1 法)
	制電性	7μC 以下(測定方法:JIS L 1094 摩擦帯電電荷量測定方法)
	色相	本体部: ネビール 指定色
	染色	原液着色
(防火服中衣生地)	組成	・透湿防水層又は裏地には不織布を用いないこと ・透湿防水層及び裏地(遮熱層)の 2 枚の生地で構成すること
(防火服中衣生地) (透湿防水層)	組成	アラミド 100%基布にゴア クロステック®メンブレンをラミネートしたもの
	耐水圧 (上衣・スボン共)	初期及び洗濯 20 回 294Kpa 以上 (測定方法:JIS L 1092 フィルム面加圧目皿使用)
	透湿度	800g/m ² /h 以上 (測定方法:JIS L 1099 B2 法)
	人工血液バリア性・ ウイルスバリア性試験	レベル 6 クラス (測定方法:JIS T8060 B 及び JIS T8061C)
その他	透湿防水層目止めテープ(シームテープ)については透湿防水膜と同様の素材(PTFE)を用い、完全に目止めを施すこと	
(防火服中衣生地) (遮熱層兼裏地)	組成	アラミドを主体とした難燃生地とする
	組織	上 衣用)特殊膨れ織り:空気層を形成する構造であること スボン用)平織:パラ型アラミドを格子状に配したリップストップ
	質量	上 衣用)130±15g/m ² スボン用)160±15g/m ²
	色相	上 衣用)濃紺 スボン用)濃紺(格子部は生成り色)

(2) 補助材料

使用箇所等	素材・規格
内袖口	アラミド 100%ニット
面ファスナー	幅 25mm・50mm・38mm(FAR 難燃・撥水・制電性を有するもの)

反射テープ	蛍光レッド×シルバー×蛍光レッド 約 75 mm巾 軽量化、及び通気性確保の為、パンチング加工を施したもの。 上下両端には縫糸保護、及び視認性向上の為、蓄光材を含有したシリコンゴムにてコーティングを施すこと
ファスナー	YKK 製ファスナー
サスペンダー	ゴム製テープ 幅 38mm 黒色
押しホック	真鍮製 #7050
縫製糸	メタ型アラミト 40 番(防火服生地と同系色とする)
冷却材ポケット	ナイロンメッシュ 黒色
補強布 (袖口・肘当て・肩部・膝当て・スホン裾)	アラシールト 黒色

3 縫製

- (1)各部の縫い合わせは良好であること。
- (2)糸調子は良好であること。
- (3)縫い代は約 1cm とし表地はオーバーロックを掛け縫い始めと縫い終わりは返し針を施すこと。
- (4)各部の縫製は防水構造を用いた縫製とする。

4 上衣

(1)身頃

- ア. ショートタイプの上衣とする。
- イ. 前身頃のハギ脇合わせはオーバーロックを掛け地縫いして片倒し飾り縫いとする。
- ウ. 左前身に幅 10cm の前立付きとし前立内側に面ファスナー及びコイルファスナーを縫い付ける。コイルファスナーは襟にかけて縫い付ける。
- エ. 右前身頃から襟にかけて面ファスナーとコイルファスナーを付ける。コイルファスナー下端部に合わせて持出用つまみ(外衣共生地)をつける。
- オ. 左右前立側面にハの字型のマイクハンガーを取り付ける。
- カ. 後身頃は 1 枚仕立てとし、裾部についてはロングテールタイプとする。
- キ. 前身頃胸部・後身頃背中(縦使い 2 本)・裾に反射テープを縫い付ける。
- ク. ポケット上部には裏面にカ布として透湿防水層を縫い付ける。
- ケ. 右前身頃見返し下部に片布を取り付ける。
- コ. 左右脇身頃下部はスリット仕様とする。
- サ. 後身頃(背中)の適宜の位置に指定する文字を入れること。(概要図参照。詳細は協議の上、決定する)

(2)襟

- ア. 表及び裏に共布を用いた一枚襟とし、芯地を入れ、地縫いの上飾り縫いをする。
- イ. 襟巾は後中心で約 11cm とする。
- ウ. 襟の前部にはストラップが取り付けられていること。
- エ. 襟付けは防水構造を用いた縫製とする。

- オ. 表襟中央に襟吊りとサイズマークを付ける。
- カ. 適宜の位置に警笛ループを縫い付ける。

(3) 袖

- ア. 袖は特殊ハギを用いた 4 枚袖とする。
- イ. 運動性を良くする為に後袖山にダーツを設ける。
- ウ. 作業性を高めるため、袖口を斜めカットとする。
- エ. 肘部に補強布(アラシールト)を縫い付けること。
- オ. 肩部に補強布(アラシールト)を縫い付けること。
- カ. 袖口にアラミト素材のジャージと浸水防止用透湿防水層を縫い付ける。
- キ. 袖口には擦れ防止用として幅約 3cm の補強布(アラシールト)を二条縫いにて縫い付ける。
- ク. 袖口より約 10cm 上に反射テープを縫い付ける。
- ケ. 袖口に中衣止め用押しホック付ナイロンテープを左右各 2 個取り付ける。
- コ. 二の腕の適宜の位置に反射布を縫い付けること。

(4) 裾ポケット

- ア. 雨蓋付き三方風巾ポケットを左右身頃に付ける。
- イ. 雨蓋は三分割とし芯地を入れ、面ファスナーを付け地縫いの上飾り縫いとする。
- ウ. ポケット下端に反射テープを縫い付ける。
- エ. ポケット底部に水抜き穴を設ける。
- オ. ポケット内側に無線機用ループを取り付ける。

(5) 胸ポケット

- ア. 左胸に雨蓋二分割式の三方風巾ポケットを縫い付け、右胸は雨蓋の中央上部を身頃に強固に縫い付ける。雨蓋裏には面ファスナーを付け地縫いの上飾り縫いとする。
- イ. 両胸とも雨蓋下端に補強材を取り付けること。
- ウ. 左胸ポケット雨蓋に別図の通り「福山」と消防局が指定する反射文字を入れること。
- エ. ポケット底部に水抜き穴を設ける。
- オ. ポケット内側に無線機用フックを縫い付ける。

(6) 中衣

- ア. 中衣は透湿防水層と遮熱層兼裏地からなり、各々を重ね縫いすること。
- イ. 肩部に難燃フェルト(遮熱層兼裏地)を縫い付ける。
- ウ. 両脇に保冷材収納用ポケットを縫い付ける。ポケット生地はメッシュとする。
- エ. 透湿防水層は地縫いをして片倒し飾り縫いをシームテープで目止めをする。
- オ. 取り扱い表示、及びサイズマークを縫い付ける。

5 ズボン

(1) 身頃

- ア. ハウエストタイプのズボンとする。
- イ. スボンの形状は、最初から「く」の字の様に曲がっているデザインとしてベルトとサスペンダーにより支持

するものとする。

- ウ. 内股部・脇部に運動性を良くするための特殊ハギを入れる。
- エ. 脇縫い・内股縫い・尻縫いは裁ち目にオーバーロックを掛け地縫いをして片倒し飾り縫いとする。
- オ. 左右大腿部適宜の位置に携行品取付用ループを縫い付ける。

(2)前立て

- ア. 前立てはコイルファスナーと面ファスナーの併用仕立てとし押しホックで止める。
- イ. 押しホックの裏側には透湿防水層の当て布を付ける。

(3)膝部

- ア. 運動性を良くする為に膝部はハイヤス裁ちにする。
- イ. 膝部に補強布(アラシールト)を縫い付けること。(概要図参照)

(4)腰部

- ア. ハイウエスト内側部には補強として難燃フェルトを挿入し、ハイウエストの倒れこみ防止措置を講じること。
- イ. 前身頃上部に外衣共生地でサスペンダー受け金具支持台を縫い付ける。端末部分はカン止めをする。
- ウ. サスペンダーはホルスター型とする。
- エ. 左腰裏に片布・サイズマークを縫い付ける。

(5)腰部調整ベルト

- ア. ベルト通しを6本縫い付ける。
- イ. ベルト幅は約38ミリとし、腰の両側で確実に締められる構造であること。
- ウ. ベルトが抜けないように先金(樹脂製)付きとする。
- エ. 締め付けた後に緩まないようにフリー面ファスナーで固定できる構造であること。

(6)大腿部ポケット

- ア. 両大腿部に雨蓋付二方風きんポケットを設けること。
- イ. ポケット下部には鳩目穴(水抜き穴)を設けること。
- ウ. 雨蓋は面ファスナー開閉式とし、両端に補強材を取り付けること。

(7)裾

- ア. 両裾から約10cm上の位置に、反射テープを縫い付ける。
- イ. 裾部は擦り切れ防止のため、補強布(アラシールト)を縫い付ける。
- ウ. 裾口脇側に開閉コイルファスナーを取り付ける。
- エ. 裾口に絞り用フラップを取り付ける。
- オ. 中衣固定のため、押しホック付ナイロンテープを左右各2個取り付けること。

(8)中衣

- ア. 中衣は透湿防水層と遮熱層兼裏地からなり、各々と重ね縫いすること。
- イ. 透湿防水層は地縫いをして片倒し飾り縫いシームテープで目止めをする。
- ウ. 膝部に難燃フェルトを(遮熱層兼裏地側)縫い付ける。
- エ. 取り扱い表示・片布・サイズマークを取り付ける。

6 寸法表

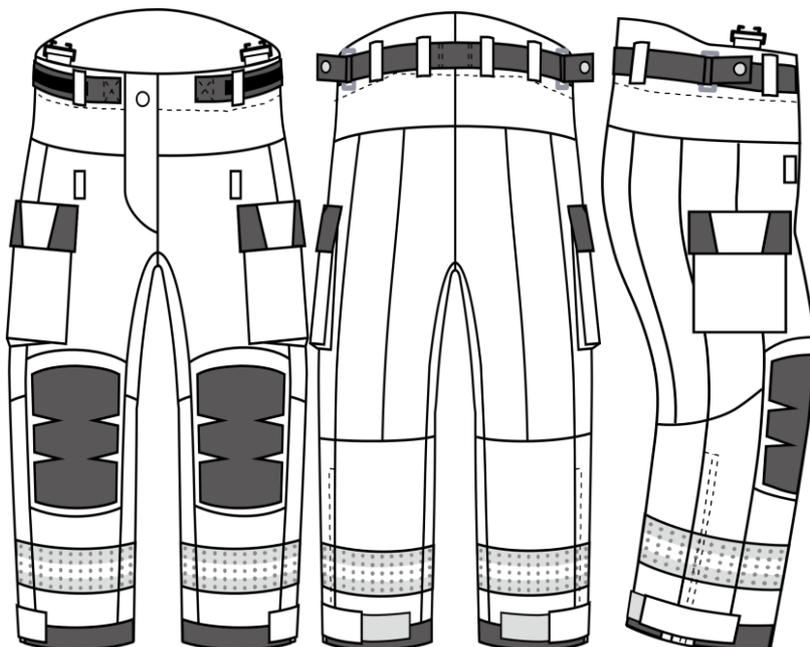
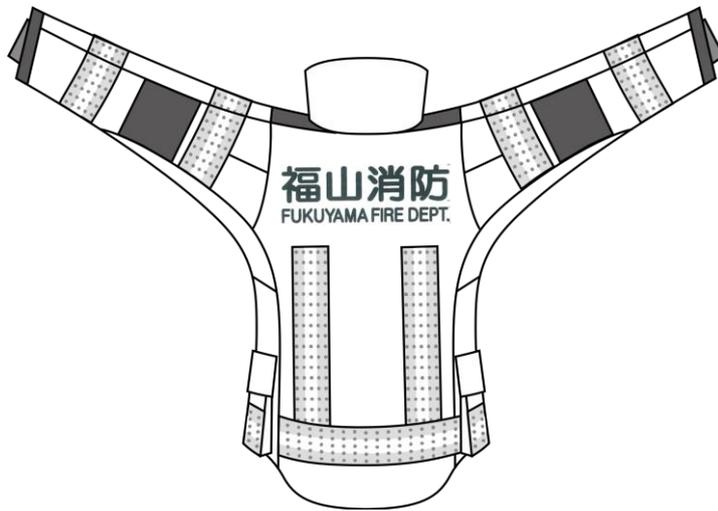
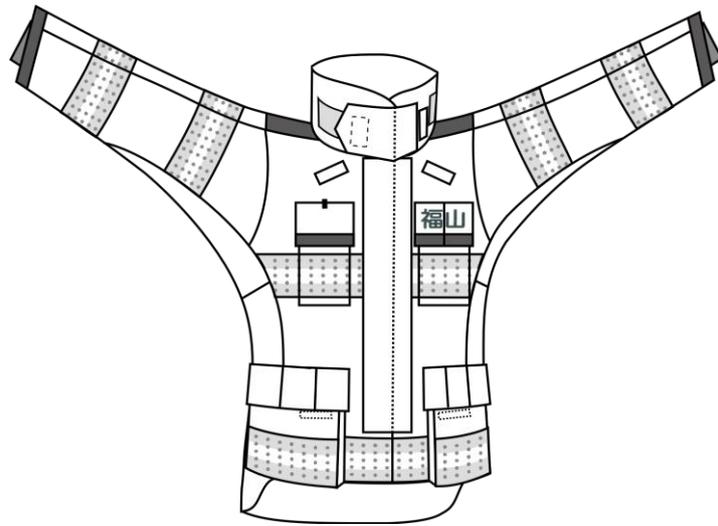
ア. 上衣

	S	M	L	LL	3L	4L	5L	BM	BL	BLL	B3L	B4L
着丈	69	71	75	79	83	87	91	75	79	83	87	91
胸囲	116	120	124	130	136	146	156	124	130	136	146	156
裾回り	109	113	117	123	129	139	149	117	123	129	139	149
衿丈	77	80	83	86	89	92	95	78	81	84	87	90
袖口幅	16	16	16	16	16	20	20	16	16	16	20	20
腕回り	49	50	50.5	51	52	54.5	57	57.5	59	61	66	70

イ. スボン

	W75	W80	W85	W90	W95	W100	W110	W120	W130	W140
ウエスト	75	80	85	90	95	100	110	120	130	140
股上	33	33	34	35	35	36	37	38	39	40
股下	5 cmピッチで対応すること									
渡り幅	36	36	37	38	39	40	43	46	49	52
裾幅	21	21	21	21.5	22	22.5	23	24	25	25

概要図



< 別 図 >

背文字

(mm)



胸文字

